

博物館通信 冬号 2001年12月発行 Vol. 4

11月のしし座流星群、すごかったですねー！ あんなにたくさんの流れ星を見たのは、生まれてはじめての経験でした。次は30年後!? でも、最新の予報によると、100年先まではたくさん流れないとか!? うーん、まさに一生に一度の経験だったのかも...

★ ラインナップ ★

冬の星空

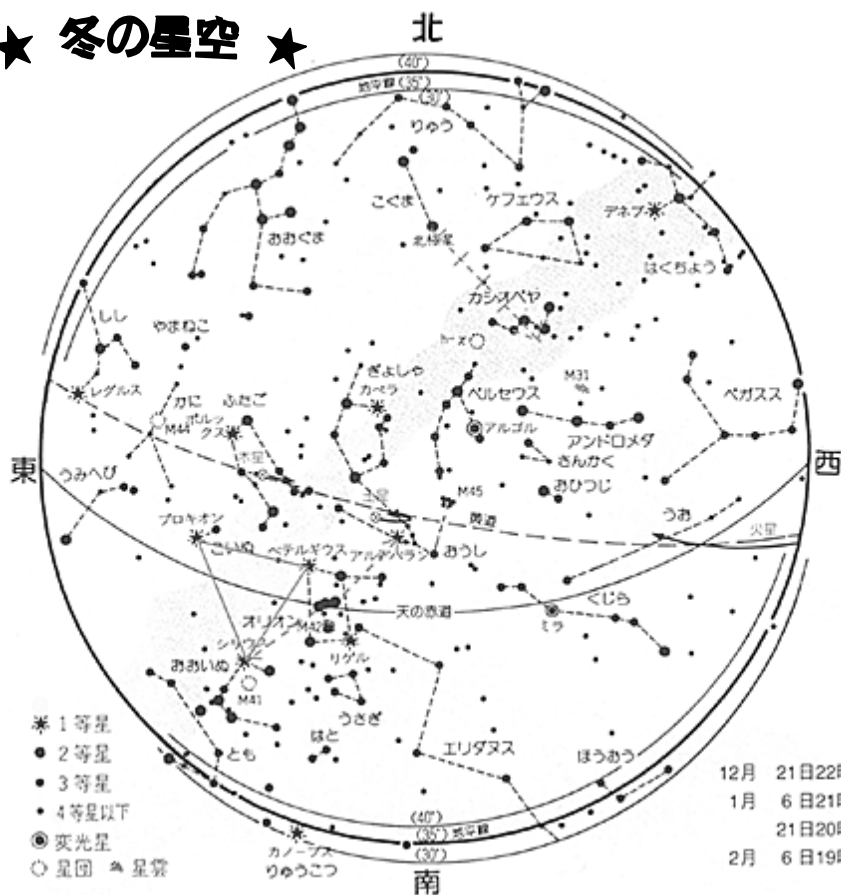
オリオン座

天文トピックス

プラネタリウムの紹介

ちょっとオススメ！ “ちはや星と自然のミュージアム” に行ってきました！

★ 冬の星空 ★



冬の夜空には明るい星が多く、街明かりの中でも星座探しが楽しめます。

では、南の空から見ていきましょう。どの星よりもギラギラと青白い光を放っている星が、全天一明るいおおいぬ座の1等星《シリウス》です。この名の由来は「焼きこがすもの」という意味のギリシャ語からきています。

このシリウスから同じ間隔を右上と左上へとのばすと、赤い星と白い星があります。右上の赤い星は、オリオン座の《ベテルギウス》。左上の白い星は、こいぬ座の《プロキオン》どちらも1等星。この三つの1等星を使ってシリウスを下の頂点にしてつくる逆正三角形が【冬の大三角】です。宵の空、真南の中天に目につくので、冬の星座探しの目印になります。

ベテルギウスの右下には三つの星が斜め

にならぶ“三つ星”があります。その下には、縦に連なる“小三つ星”。ここには、肉眼でもぼうっと見える星雲(M42)があり、星が生まれる場所として注目されています。ベテルギウスの右下の対角には、1等星《リゲル》が輝いています。これらの星ぼしで形作られているのが、人気があるオリオン座です。オリオン座の右上にはオレンジ色に輝く《アルデバラン》が目につきます。このあたりに見える星のならびがおうし座です。この星座には、「ブレアデス星団」「カニ星雲」など有名な星雲・星団があります。オリオン座の上、頭上近くには五角形をしたぎよしゃ座があり、1等星《カペラ》が見つかります。このカペラ、1等星の中でいちばん北よりに位置しているため冬に限らず見ることができます。そしてぎよしゃ座の左には、二つの星が仲良くならぶ、ふたご座があります。明るい1等星が弟の《ボルックス》2等星が兄の《カストル》です。この双子の足元には冬の天の川が流れており、双眼鏡で見るとたくさんの星が見られます。オリオン座を中心に冬の星座を見てきましたが、12

月の惑星は、火星が日没の頃に南の空高く見え 21 日には月とならびます。土星はおうし座で、木星がふたご座あたりで輝いています。この時期は、開いた土星の“環”を一晩中見ることができるので、ぜひ望遠鏡で見ましょう。28 日の夕方には、土星が東の空で月と大接近。30 日には、木星も月に大接近します。この冬の星空、見どころがたくさんあります。しっかりと防寒対策をしてみごとな冬の星空をお見逃しなく！

< 巨人の狩人：オリオン座 >



ギリシャ神話では、毛皮の盾を左手に、右手に大きなこん棒を持ったオリオンは、ギリシャの海の神ポセイドンの子で、海上も地上と同じように自由に歩くことができました。そのうえ、海の底を歩いていても頭が海面に出るくらい背が高い大男で、太いこん棒でトラでもライオンでもわけなく倒すほどの大変な力の持ち主でした。

オリオンは『おれほど強いものはいない』と、その強さを自慢しました。それを聞いたギリシャの神々は、オリオンをこらしめようと《一匹の大きなさそり》を放ちました。そのさそりに足を刺されたオリオンは、すごい毒のため、たちまち死んでしまいました。

さすがのオリオンもさそりの毒に勝てませんでした。力自慢の大男にも弱点があったのですね。

この神話にでてくるオリオンとさそりは、ともに空にあげられ星座になっています。オリオンは星になってからも、さそりをこわがってか、さそり座が西に沈むまで、東にすくんでいるのだといわれています。実際に星空を見上げると、オリオン座は、さそり座が西の空に沈んでから東の地

平線から姿を見せます…。

さて、皆さんはオリオン座が東の地平線からのぼってくるのを見たことがありますか？ オリオン座の三ツ星の右端の星の名は「ミンタカ」、2 等星です。この星は赤道（天の赤道）の真上にあるので、真東からのぼり、真西に沈みます。ミンタカは真東を知ることができる星です。のぼってくるオリオン座から東の方向がわかります。ミンタカを見つけて真東を確かめてみましょう！

★ 天文トピックス ★

12 月 14 日：ふたご座流星群極大

12 月 15 日：金環食

（太平洋東部・中部：日本では見られません）

12 月 22 日：冬至（夜が最も長い日）

12 月 30 日：半影月食

1 月 1 日：木星が衝

1 月 4 日：りゅう座 流星群極大

1 月 12 日：水星が夕方西空で見ごろ

1 月 25 日：土星食（西日本で）

1 月 27 日：木星食（東北以北）

2 月 22 日：水星が明け方東空で見ごろ

リニア彗星(C/2000WM 1)が

6 等星ほどで見えています！

（1 月 23 日近日点通過）

★ ちょっとオススメ ★

“ちはや星と自然のミュージアム”に行ってきました！



「ちはや星と自然のミュージアム」は、2001年4月にオープンしたばかりの博物館です！ 大阪の南東部、金剛山の山頂にほど近い標高1000mの場所にあります。大阪で一番標高の高い(?)金剛山では、四季折々の自然を楽しむ登山客でいっぱいです。そんなミュージアムへ、11月の中旬に遊びに行ってきました。

山のふもとまでは車です。それもなかなかの山道！ でもちょうど紅葉がきれいな時期で、道沿いは色とりどりの木々でとてもきれいでした。ふもとへ到着すると、次はケーブルカーです。これで一気に山頂まで登ります。このケーブルカーからの景色がま

<ケーブルカーから降りると散歩道です>

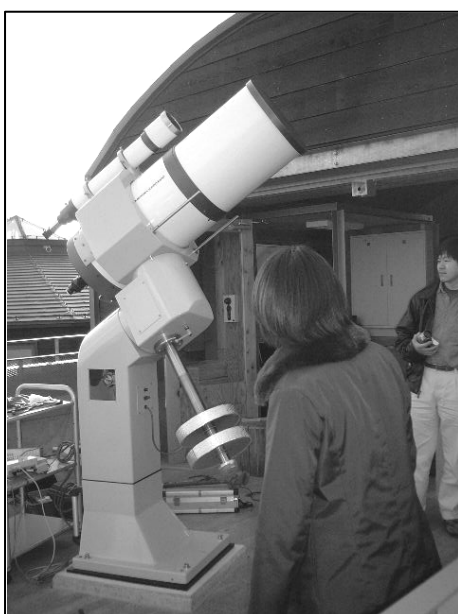
たすごい！！ 紅葉で彩られた山々の向こうには海が...！？ うん？ そう、大阪湾が見えているのです。なんと天気の良い日には兵庫県の明石大橋まで見るとか(すごい遠いのに...)。それほど見晴らしの良いところなのです。

さて山頂に着いて、いよいよミュージアムに到着です。ここは、名前からもわかるように「星」と「自然」をテーマにしています。1階はエコ府民プラザ。大阪府民のみなさんが金剛山で得た草花や野鳥や昆虫の写真、標本のほか、森の天然素材を使って作った、さまざまな作品が展示してあります。

1階から2階にかけてのスロープは、金剛山の歴史へ触れるタイムトンネル。トンネルを抜けると「自然サイエンスゾーン」があり、金剛山の自然を映像や音声で楽しめます。そして屋上には... 望遠鏡があります！(これが見たくて行ったのです！)



<ちょっとオシャレなミュージアム概観>



<口径40cm 反射望遠鏡>

屋根が横へ移動するスライディングルーフ式のドームには、口径40cmの反射望遠鏡が備えられ、昼間の太陽や金星、夜には隣の宿泊施設のお客さんのために観望会が行われています。

当日は幸いお天気も良く、しっかり観望会に参加させていただきました！ 「大阪の空は明るいから見えないだろうなあ」と思っていたものの、思った以上に暗く、星座や惑星たちはもちろん、オリオン星雲やカニ星雲、



<夕焼けもまたきれいなこと...>

球状星団までしっかり楽しめました。プレアデス星団だって、肉眼で5,6個は見たもんなあ。いやいや、大阪の空をちょっとだけ、見直しました(笑)。

さてこれで見学は終了…。なのですが、おまけをひとつ。私たちは10人ほどで泊まりがけで遊びに行ったのですが、泊まったのは金剛山のふもとの「民家」です。えっ？と思うでしょう？実はそこ、貸切で借りることができるんです。普段は、ちゃんとおうちの人がいて生活をするみたいなのですが、希望があると貸してくれるそう。部屋は広くて、10人いても余裕余裕。しかも、本物の囲炉裏(いろり)があるんですよー！その晩は、炭をくべながら、囲炉裏を囲んで夜中まで語り明かしたのでした…(笑)



< 霧囲気サイコーの囲炉裏 >

そんな「ちはや星と自然のミュージアム」のホームページは
<http://1000m.chihayaakasaka.osaka.jp/> です。

(問い合わせ: 0721-74-0056)

民家は… 興味がある方は、私(Yumi)までお尋ねください。



プラネタリウム冬番組

「南半球の星々 -私の出会った南十字星-」

12/8(土)~3/3(日) まで投映中

地球の北と南では、見える星空が違うって知ってました？
それは地球が丸いからなんです。

日本ではさむーい冬休み、お父さんがいるオーストラリアへ出かけたハナ子ちゃんは、いつもと星座の位置が違うのにびっくりします。そして目の前には憧れの南十字星が…。あなたも南半球の星空を、見に来ませんか？

< 編集後記 >

“ホワイトホース(白い馬)”という地名に惹かれて行ってきました…カナダへ(理由は干支がウマだから)。オーロラ以外にも普段見えないものが見れたり遭遇したり！今の気持ちは寒さに反して、ホクホクあったかい。2002年も良年の予感！！ ガ・ン・バ・ル・ゾー！ Satomi

今朝(12月14日)は特に寒く、博物館のある山上では白いものがちらちら「初降雪」です！さて、もうすぐ冬休みですね。土星・木星も加わり、夜空は最高！ M.Y

つい先日、3年半連れ添ったカメちゃん(ミドリ)が天国へ旅立ってしまいました。でも残されたアオちゃんは元気いっぱい！いつまでも元気で長生きしてねー！ Yumi

しし群をはじめ、今年は夜空を良く眺めた年でした。良かったー、きれいだったー！ H.I

< 来年もきれいな星空が見れますように！ >

この博物館通信は、岡山天文博物館が作製しています。次回冬号は、3月発行予定です。

岡山天文博物館 浅口郡鞆方町本庄3037-5 TEL・FAX 0865(44)2465 休館日: 月曜・祝日の翌日
博物館ホームページ <http://www.rweb.ne.jp/astro/index.html>